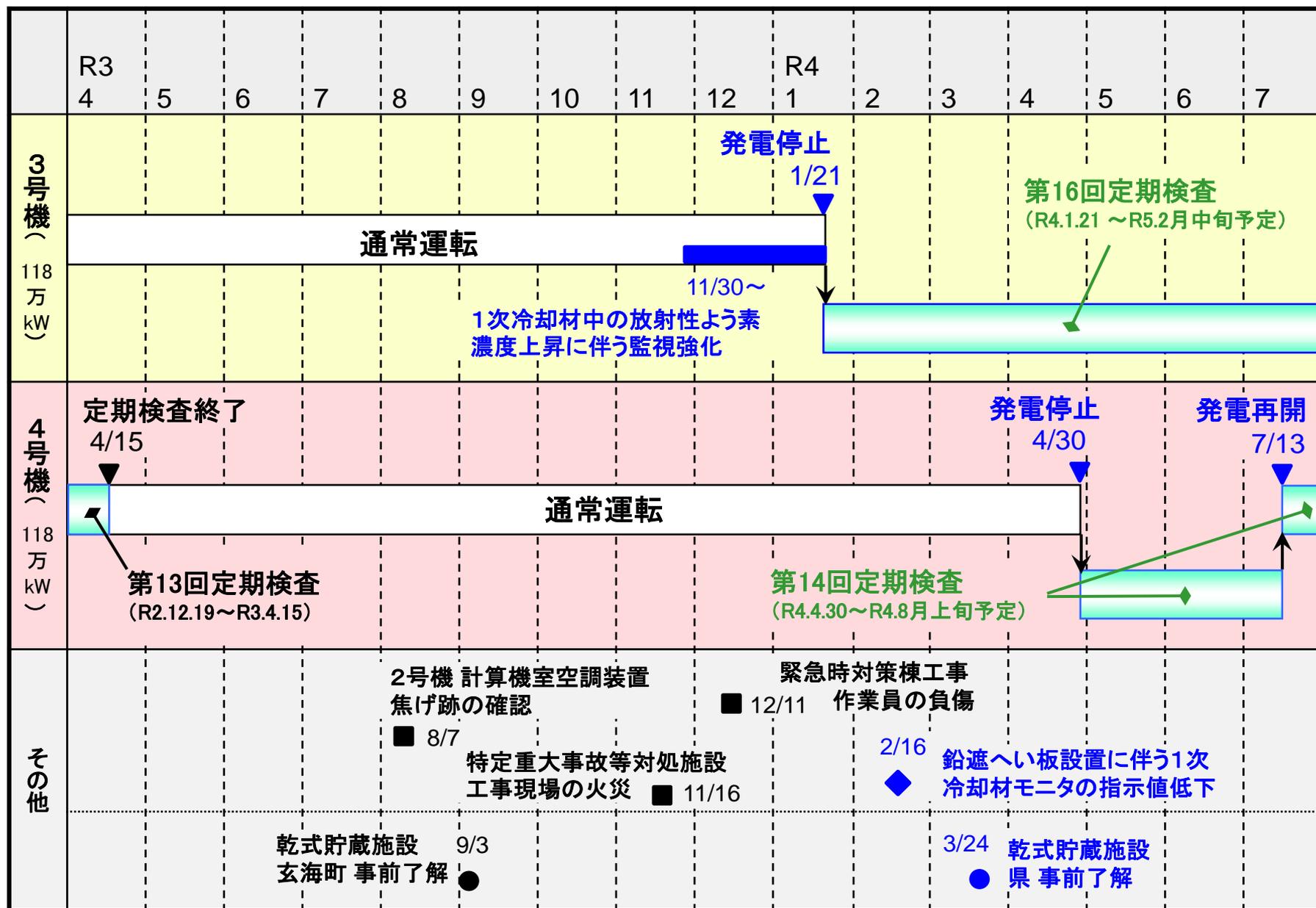


玄海原子力発電所の運転状況等について (令和3年4月～令和4年3月)

令和4年8月2日
原子力安全対策課

(1) 経過(令和3年4月～令和4年7月)



(2) 3、4号機の発電状況(令和3年4月～令和4年3月)

	3号機	4号機	合計
電気出力 (MW)	1,180	1,180	2,360
発電電力量 (億kWh)	84.8	104.3	189.1
利用率※ (%)	82.0	100.9	91.5

$$\text{※ 利用率} = \frac{\text{(発電電力量)}}{\text{(暦時間)} \times \text{(設備容量)}} \times 100(\%)$$

(3) 1、2号機の廃止措置の実施状況

① 第1段階(解体工事準備期間)の進捗状況



(3) 1、2号機の廃止措置の実施状況

② 解体撤去物の発生状況(令和4年3月末時点)

【1号機】

種 類	発生量(トン)		処分量(トン)		期末保管量 (トン)
	令和3年度	累計(※)	令和3年度	累計(※)	
金属類	362.9	990.7	362.9	990.7	0
コンクリート類	41.4	45.7	41.4	45.7	0
その他	79.8	99.0	79.8	99.0	0

※廃止措置開始(H29.7)以降の発生量

【2号機】

種 類	発生量(トン)		処分量(トン)		期末保管量 (トン)
	令和3年度	累計(※)	令和3年度	累計(※)	
金属類	32.3	260.1	32.3	260.1	0
コンクリート類	0	4.4	0	4.4	0
その他	6.5	18.7	6.5	18.7	0

※廃止措置開始(R2.6)以降の発生量

(4) 燃料輸送等の状況(令和3年4月～令和4年3月)

① 新燃料(取替用燃料)の搬入

該当なし

② 新燃料(未使用燃料)の搬出

搬出(出港)年月日	体数	搬出元	搬出先	輸送手段
令和3年8月3日	36体	2号機	米国フラマトム社 リッチランド工場	船舶
令和4年3月8日	36体	1号機		
	36体	2号機		

③ 使用済燃料の搬出

該当なし

(4) 燃料輸送等の状況(令和3年4月～令和4年3月)

④ 使用済燃料の構内運搬

運搬年月日	体数	運搬元	運搬先	運搬手段
令和3年9月28日 ～ 令和3年11月15日	112体	4号機	3号機	専用車両

※期間中に14体ずつ、8回に分けて輸送

⑤ 低レベル放射性廃棄物の搬出

搬出年月日	搬出量 (200リットルドラム缶)	搬出先	輸送手段
令和4年2月10日	1,384本	日本原燃(株)	船舶

(5) 放射性廃棄物の管理状況(令和3年4月～令和4年3月)

① 気体・液体廃棄物の放出量

種 類	放出量 (ベクレル)	放出管理目標値 (ベクレル/年)
気体廃棄物	2.2×10^{11}	1.0×10^{15}
液体廃棄物	定量限界未満(※)	7.5×10^{10}

(※) 定量限界未満: 測定の結果、放射性物質の量が検出できる下限値未満

② 固体廃棄物の保管量(令和4年3月末時点)

	貯蔵量 (200リットルドラム缶相当)	貯蔵設備容量 (200リットルドラム缶相当)
原子炉施設合計	38,310本	約49,000本

(6) 事故・故障等の発生状況

① 安全協定第6条に該当する事故・故障

- 玄海原子力発電所 特定重大事故等対処施設の工事現場における火災の発生

➡ 令和3年11月16日発生 (前回報告済み)

② 保全品質情報 (法令及び安全協定上報告の必要は無いが、電力会社や産学官で共有することが有益な原子力発電所の保守・運営情報)

- 玄海原子力発電所3号機 1次冷却材中の放射性よう素濃度の上昇

➡ 令和3年11月30日発生 (調査結果を資料5-2で説明)

- 玄海原子力発電所3号機 鉛遮へい板設置に伴う1次冷却材モニタの指示値低下

➡ 令和3年度第3四半期 原子力規制検査指摘事項
(詳細は資料4-1, 4-2で説明)

(6) 事故・故障等の発生状況

③ その他の情報 〔①、②に該当しない事象ではあるが、発生について九州電力が公表したもの(発煙等)〕

- 玄海原子力発電所2号機 計算機室における焦げ跡の確認
 ➡ 令和3年8月7日発生 (前回報告済み)

- 玄海原子力発電所 緊急時対策棟の工事現場における作業員の負傷
 ➡ 令和3年12月11日発生 (前回報告済み)